

令和2年2月19日

日光市議会議員 齋藤伸幸様

日光市議会議員 筒井 巖

議員派遣報告書

目的 (会議等の名称)	決算状況「歳出」・決算状況「財政収支」
会議等の 主催者の名称	地方議員研究会
場 所	名称等：TKP東京駅カンファレンスセンター 住 所：東京都中央区八重洲1-2-16TGビル
期 間	令和2年2月5日（水）～令和2年2月6日（木）
会議等の内容	別紙資料のとおり
会議等の 所感・成果等	<p>両日ともに、立命館大学政策科学部の森裕之教授による研修会を受講した。同教授は、財政学とくに地方財政と公共事業を専攻し、社会的災害（アスベスト問題など）についても公共政策論としての立場から考察をされている。</p> <p>「決算状況『歳出』」</p> <p>決算カードの読み方から始まり、令和2年度の地方財政対策のポイントや地方歳出の重点項目を解説し、決算の組み立て方など決算の内容を分かりやすく説明した。</p>

目的別歳出と性質別歳出の違いや、大阪府の羽曳野市を例にとり類似団体との違いを指摘した。

その後、同教授の持論であるPFI（公民連携）の功罪について独自の理論を展開された。それによると、公共施設の開発・維持管理の救世主とされたPFIも総コストの面から割高になってしまおうとの考え方で、近年英国会計検査院の報告では、自治体直営よりも高くなる傾向があるとして、英国財務省では今後の新規案件ではPFIを用いない事を表明しているとのこと。日光市における今後の公民連携にも参考になる考え方だと理解した。

その後、公営事業等への繰り出しや積立金と公債費の説明を受けた。

「決算状況『財政収支』」

近年の地方自治体財政の赤字問題から始まり、財務省の基金に対する考え方をマトリックスで表示し地方自治体の基金残高の推移や要員の分析をした。

その後、新潟市や浜松市、交野市といった極端な財政状況の地方自治体を取り上げ、具体的にその要因の説明を受けた。実質単年度収支が大きく連続でマイナスになっている新潟市は基金の取り崩しで決算上は実質収支がプラスになっており、反対に公共施設を多く大胆に削減してきた浜松市は、基金の取り崩しもなく見事な決算だが市民サービスの充実に疑問があり、一方交野市は土地開発公社の失政で公債費が異様に高く、財政を圧迫しているとの指摘をされた。

日光市においても財政問題は喫緊の課題であり、早急な財政再建施策が求められていると感じた。さらに、決算書から見えてくる市の真実の財政状況を的確に把握し、今後の日光市の財政運営に積極的にコミットしていかなければならないと考えた。